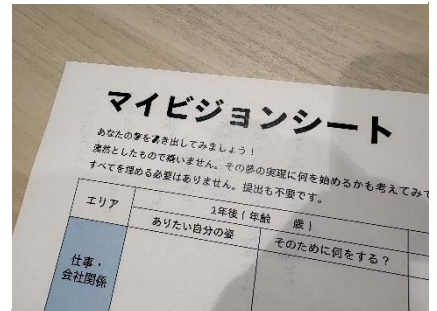


印刷女子通信

2026.2月号 ver.100a

!GWP 印刷女子。刷って、語って、つながって。



仲間と未来をつなぐ情報誌：『印刷女子通信』



印刷女子通信は、印刷業界で働く女性たちが、経験や知見を共有しながら、互いに学び合い、支え合うためのプラットフォームとして立ち上げたメールマガジンです。編集/発行元の Girls Who Print Japan は、同じ志を持つ仲間とのつながりが、個人の成長だけでなく、業界全体の前進にもつながると考えています。日々の業務の中で得た気づきや課題、挑戦の先にある達成感 —— それらを言葉にし、共有することで、次の一步を踏み出す力が生まれると信じています。この活動では、活動レポート、キャリア支援、国内外の印刷トレンドなど、幅広い情報をお届けしたいと思います。読者の皆さまが自身のキャリアを見つめ、印刷業界の未来に前向きな視点を持てるような、そんなきっかけを提供できれば幸いです。これからもよろしくお願いたします！

印刷女子通信は、印刷業界で働く女性たちが、経験や知見を共有しながら、互いに学び合い、支え合うためのプラットフォームとして立ち上げたメールマガジンです。編集/発行元の Girls Who Print Japan は、同じ志を持つ仲間とのつながりが、個人の成長だけでなく、業界全体の前進にもつながると考えています。日々の業務の中で得た気づきや課題、挑戦の先にある達成感 —— それらを言葉にし、共有することで、次の一步を踏み出す力が生まれると信じています。この活動では、活動レポート、キャリア支援、国内外の印刷トレンドなど、幅広い情報をお届けしたいと思います。読者の皆さまが自身のキャリアを見つめ、印刷業界の未来に前向きな視点を持てるような、そんなきっかけを提供できれば幸いです。これからもよろしくお願いたします！

活動レポート 2/6 印刷女子 in 東京イベント

エグゼクティブ・サマリ



2月6日に開催された印刷女子/Girls Who Print Japan 東京イベントは、午前の富沢印刷様訪問・見学と、午後のリコージャパン様での勉強会・交流会の二部構成で実施されました。本イベントは、印刷業界で働く女性たちが現場に触れ、自身のキャリアを見つめ直し、世代や立場を越えてつながることを目的としています。

午前の見学では、印刷から製本・出荷までの一連の工程を見学し、「まずやってみる」という富沢印刷様の姿勢や、現場で働く人の判断が品質を支えているリアルに触れました。印刷にとどまらない挑戦や、現場を開く姿勢は、参加者にとって自社や自身の仕事を振り返る機会となり、「印刷業界にはまだ可能性がある」との前向きな実感につながりました。

午後は、業界の変化や女性活躍の現状に関するメッセージ共有に続き、女性リーダーによるインスピレーショントークを実施。価値観や転機の話を通じて、「自分は何を軸に働くのか」を考える視点が示されました。その後のマイビジョンシート作成とグループ対話では、1年後・5年後・10年後の姿を言語化し、書くことと対話を通じて思考を整理しました。

本イベントは、他社事例から学ぶ視点の獲得、業界の未来を前向きに捉える意識醸成、そして女性同士が本音で語れる安心な場づくりという効果をもたらしました。参加者にとって、自身のビジョンを描き直す“思考の起点”となる一日となりました。参加者からは「一人ではないと感じた」「仕事への向き合い方が少し変わった」との声も多く、印刷女子の場が、学びと対話を通じて次の行動につながる“思考の起点”になっていることが確認できました。

目次：

- ① 富沢印刷様へのご訪問/見学 p.3 - 5
- ② リコージャパン様でのワークショップ p.6 - 12
 - ・印刷女子へのメッセージ
 - ・印刷女子/Girls Who Print Japan のご紹介
 - ・インスピレーショントーク
 - ・マイビジョンシート作成 → グループでの対話
- ③ 参加者 & アンケート p.13 - 15
- ④ 次回イベントのお知らせ： 2026.2.19 (木) in PAGE p.16

① 富沢印刷様へのご訪問/見学



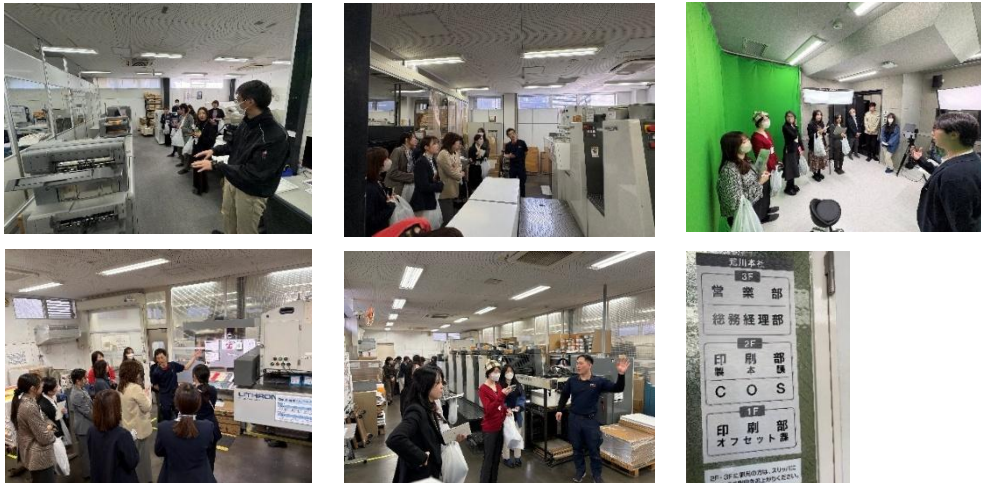
—— 整ってから動く会社ではない

見学会を通して感じたのは、富沢印刷は「整ってから動く会社」ではない、ということでした。完璧な計画や全員の賛成を待つのではなく、「まずやってみる」ことを大切にしている。その姿勢は、新規事業だけでなく、人材育成や営業の考え方にも一貫しているように感じました。管理はするけれど縛りすぎない。役割は決めるけれど固定しすぎない。学びながら幅を広げていける余白を、意図的に残している。見学会を通して、富沢印刷が「働く場として、どんな空気をつくるか」を大切にしている会社であることが、静かに伝わってきました。

(1) 会議室にて岡本様より、会社紹介をいただきました。



(2) 4つのグループに分かれ、印刷機、後加工、印刷サンプル、映像制作を見学させて頂きました。



(3) 見学会の後、活発な質疑応答がおこなわれました。富沢印刷の皆さん、ありがとうございました！



見学会で見た、富沢印刷の姿勢



—— ① 「現場を開く」ということの意味

今回、印刷女子のイベントとして富沢印刷を訪問し、参加者の多くが口をそろえていたのは「思っていた以上に“現場”が見えた」ということでした。印刷から製本、出荷までを一連の流れで見学できたこと。機械の説明だけでなく、「ここは人が判断している」「ここは経験がものを言う」そんなリアルな話を、隠すことなく聞けたこと。

アンケートには、「コンパクトだけれど無駄がない」「整理整頓が徹底されていて、働く環境そのものが印象的だった」という声が多く寄せられていました。今の自分たちの現場を、そのまま開いている（オープンにしている）という姿勢を見ることができました。



また、印刷だけにとどまらず、映像制作や地域イベントなど、新しい取り組みについても「やってみた結果、こうなった」と率直に語られていたのが印象的でした。計画が完璧に整ってから始めるのではなく、少人数でも共感する人がいれば、まず動いてみる。反対の声があっても、やってみてから考える。その積み重ねが、今の富沢印刷を形づくっていることが、伝わってきました。参加者の中には、「他社の現場を見ることで、自分の仕事を見直すきっかけになった」「印刷会社って、まだこんな可能性があるんだと感じた」という声も多くあったようです。

印刷女子のイベントの魅力は、“成功事例”を学ぶ場ではなく、**試行錯誤の途中にある現場に、直接触れられること**にあるのだと思います。完璧じゃなくていい。でも、ちゃんと考えて、ちゃんと動いている。そんな姿を見せてもらったことが、この見学会で得られた一番の学びだったのかもしれない。



—— ② 富沢印刷の「日常のリアル」

見学会後の質疑応答は「実際に見て、気になったこと」をそのまま投げかける、そんな空気でした。印象的だったのは、どの質問にも飾らず、現場の言葉で答えてくださったこと。制度や仕組みの話であっても、そこにあるのは“きれいな理想論”ではなく、日々の仕事の延長線でした。



たとえば、生産管理やジョブ管理については、富沢印刷では「Print Manager」というシステムを使い、営業から現場まで情報を一元管理しているそうです。「誰か一人が分かっていたらいい」状態にしないために、属人化を避け、工程が見える形にすることで、仕事を安定させている——そんな考え方が伝わってきました。

デザイン部門と印刷現場の距離感についての話も興味深いものでした。物理的に近いからこそ、印刷ミスや微妙な色・網点の出方を、すぐに“実物”で確認できる。画面だけでは判断しきれない部分を、現場と一緒に確かめることが、結果的に品質につながっているという話には、参加者は何度も頷いてしまいました。



人材採用や定着についても、「特別な制度があるわけではない」と正直に語られていました。その代わりに大切にしているのは、挑戦する姿勢を隠さず伝え続けること。斜陽産業と言われがちな印刷業界だからこそ、「やってみる」「失敗しても次を考える」姿勢に共感して入社する人が多いのだそうです。教育についても、分業で囲い込むのではなく、印刷・DTP・デザインを横断して学ぶスタイル。最初は印刷の基礎から入り、少しずつ守備範囲を広げていく。「全部できる人を育てたい」というより、「全体がわかる人でいてほしい」というニュアンスが、言葉の端々から感じられました。

営業や新規開拓の話も、とても現実的でした。飛び込みやテレアポといった“昔ながら”の方法も、今も現役。一方で、顧客が新しい案件を取るための提案書づくりまで一緒に行くなど、「売る」だけでなく「一緒に取る」姿勢が印象に残りました。数字についても、追い込みすぎない。月ごとに詰めるのではなく、年間でどう積み上げるかを見る。目標はあるけれど、人を追い詰めるためのものではない——そんな空気が、質疑応答の中から自然と伝わってきました。富沢印刷の皆様、ありがとうございました！



② 勉強会/交流会 in リコージャパン様

2/6 (金) 午後は、35名で、リコージャパン様にて、勉強会・交流会を開催いたしました。



午後の部は、印刷業界で働く女性たちが集まり、今の仕事やキャリアについて意識し、言葉にし、互いの考えを共有するための時間。冒頭では、印刷女子の活動が世界とつながる取り組みであること、そして印刷業界がすでに変化の途中にあり、今まさに動いている現場であることが共有されました。そして、これまでの印刷女子活動の概略が共有され、そしてインスピレーショントークとワークショップに進みました。

1) ご挨拶 & リコーのご紹介



リコージャパン株式会社 執行役員 デジタルサービス企画本部 副本部長) 泥谷 謙司様

株式会社リコー リコーグラフィックコミュニケーションズBU 商用印刷事業本部 本部長) 立石 敦也様

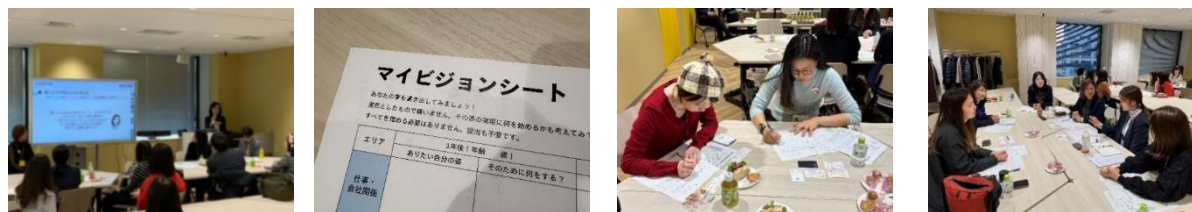
(2) 参加者の自己紹介 & 印刷女子/GWPjのご説明



(3) ショールーム見学



(4) インスピレーショントーク & ワークショップ (マイビジョンシートの作成&共有)



(5) 交流会



① 印刷女子へのメッセージ

—— (1) 世界とつながる場としての「今、ここ」

まず、会場となったリコーを代表して、リコージャパン株式会社 執行役員 デジタルサービス企画本部 副本部長の泥谷謙司氏から、印刷女子グループに向けたメッセージが語られました。

冒頭で触れられたのは、米国発の NPO 法人「Girls Who Print」の存在です。2002 年に設立され、現在は世界で約 11,000 人が参加するコミュニティへと広がっていること、日本支部は 2014 年に立ち上がり、今回の開催が 6 回目であることが紹介されました。それは、「この場は、ローカルな集まりではなく、世界とつながる文脈の中にある」そのことを、参加者一人ひとりに静かに伝えるメッセージだったと感じました。印刷女子の活動は、社内の延長線上にある勉強会でも、限られた人のための場でもありません。印刷という産業の未来を語る、正当な場所であり、世界と接続された価値ある取り組みである。その前提を、最初に共有してもらえたことで、会場には自然と安心感と誇りが生まれていきました。



続いて紹介されたのが、リコーのプリンティング・イノベーション・センター (PIC) と、スマート・イノベーション・センター (SIC) です。プロダクションプリンティングの最前線に加え、AI を活用した業務課題の検討やソリューション提案など、印刷とデジタルサービスを融合させた取り組みが紹介されました。ここで明確に伝えられていたのは、印刷は「過去の産業」ではない、ということです。むしろ、技術やサービスの変化の只中にあり、進化を続けている分野である。その中で働くこと、関わり続けることは、決して後ろ向きな選択ではない。そんなメッセージが、言葉の端々から感じられました。

最後に、キーワードである「語って、つながる」という言葉にもふれて頂きました。

結論を急がなくていい。まずは安心して語っていい。対話し、つながることそのものが価値であり、そこから次の動きが生まれていく。泥谷様のこのメッセージが、その後の自己紹介やディスカッションの時間を、参加者が自分の言葉で話すための、しっかりとした土台になっていたように思います。

印刷女子の場は、何かを一方的に教え込まれる場ではありません。一方で、単なる交流の場でもありません。印刷という仕事に向き合い続ける女性たちが、安心して語り、考え、次の一步を探すためのビジネスの場です。そのことを、この冒頭のメッセージが示してくれた気がします。

① 印刷女子へのメッセージ

—— (2) 「変わり始めている現場」と「変えていく組織」

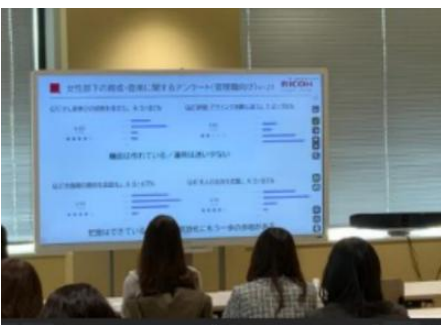
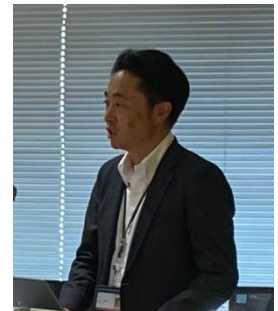


次に、株式会社リコー リコーグラフィックコミュニケーションズ BU 商用印刷事業本部 本部長の立石敦也氏から、商用印刷事業を軸としたプレゼンテーションが行われました。

立石氏の話の前半で語られたのは、印刷業界の「現在地」です。商用印刷、産業印刷、ソフトウェアまでを含むリコーの事業ポートフォリオや、国内4割・海外6割というグローバルな事業構成が示され、印刷がすでに大きな変化の過程にあることが、具体的な事例とともに紹介されました。

特に印象に残ったのは、商用印刷のデジタル化が「これからの話」ではなく、すでに成果を上げている現場の話として語られていた点です。在庫リスクを抑え、必要な分だけを生産する仕組みや、顧客価値の向上につながっている海外の事例は、印刷が単なる「紙への出力」ではなく、ビジネスそのものを支えるプロセスへと進化していることを実感させるものでした。

立石氏が繰り返し伝えていたのは、印刷業界は「これから変わらなければならない段階」ではなく、すでに「変わり始めている現場」にある、という認識です。そしてその変化には、まだ多くの人が関われる余地が残されている。参加者一人ひとりに向けて、そうした可能性が静かに示されていました。



プレゼンテーションの後半では、話題があえて技術や市場から、「組織と人」へと移ります。商用印刷事業本部では約500人規模の開発体制を持ちながら、女性比率は約9%にとどまっているという現実が共有され、女性社員の意識や管理職登用について独自にアンケートを実施していることが紹介されました。ここで語られたのは、組織として直面している現実の課題です。ただし、その語り口は決して悲観的なものではなく、「この状況をどう変えていくかを考えている」という姿勢が明確に示されていました。

変革は簡単ではないが、まだ余地はある。その前提に立って、向き合おうとしていることが伝わってきました。

産業としての印刷は、すでに変わり始めています。だからこそ、組織のあり方や、人の関わり方もこれから変えていく必要がある。立石氏のプレゼンテーションは、印刷業界の未来が、技術だけでなく、現場と人の選択にかかっていることを、はっきりと示していたと感じました。印刷女子の場が、こうした現実と正面から向き合う話を共有できる「ビジネスの場」であることを、改めて実感できました。

② 印刷女子/Girls Who Print Japan のご紹介

—— 前回の京都イベント「語って、つながる」を実感した一日



印刷女子/GWPjの事務局メンバーから、昨年11月に京都で開催したイベントの概要が共有されました。京都での印刷女子イベントは、Girls Who Print Japanにとって「初めて」が重なった一日でした。初の関西開催であり、そして初めての終日プログラムでした。しかし、その挑戦が、今回の東京イベントにつながっていることが事務局の青木理恵さん&永嶋ゆりさんより語られました。



午前中は、京都市内の印刷会社を訪問し、会社紹介と工場見学が行われました。プリプレスから印刷、加工、梱包・出荷まで、一連の工程を実際に見て回り、現場で働く方々の話を直接聞くことができました。見学後には質疑応答の時間



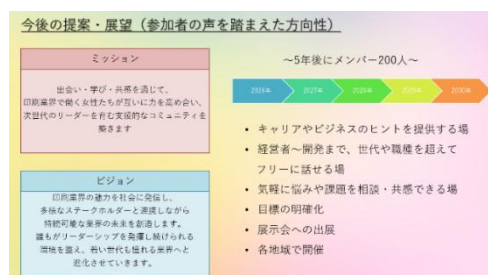
も設けられ、デザインや営業、現場それぞれの立場から、普段はなかなか聞くことのできないリアルな声が交わされました。特に印象的だったのは、参加者と受け入れ側が向かい合う形ではなく、円になって話をした座談会形式です。肩書きや立場を越えて、日々の工夫や悩み、仕事への向き合い方が率直に語られ、短い時間ながらも密度の濃い対話が生まれていました。



午後は会場を移し、SCREEN 本社にてワークショップと交流会が行われました。ワークショップでは、「印刷業界で働く魅力とチャレンジ」「印刷業界のサステナブルな未来」という二つのテーマについて、グループに分かれてディスカッションを実施。世代や職種の異なる参加者同士が、それぞれの視点から意見を出し合いました。議論

の中では、印刷は人と情報をつなぐ仕事であること、多様なキャリアパスが存在することなど、業界の魅力が改めて共有される一方で、分業体制ゆえの難しさや、受注産業から提案型への転換といった課題についても、率直な意見が出ていました。

印象に残っているのは、「また参加したい」「他の人にも勧めたい」という声が多く聞かれたことです。特別な結論を出す場ではありませんでしたが、語り合い、つながることで、それぞれが何かを持ち帰ることができた一日だったのだと思います。



この京都イベントでの経験や対話は、その後の活動にも確実につながっています。印刷女子のイベントは、単発で完結するものではなく、回を重ねながら、少しずつ積み重なっていくものです。京都で交わされた言葉や気づきが、次の場での対話の土台となり、また新しいつながりを生んでいきます。

③ インスピレーショントーク

——「自分の軸」を見つめ直す 20分

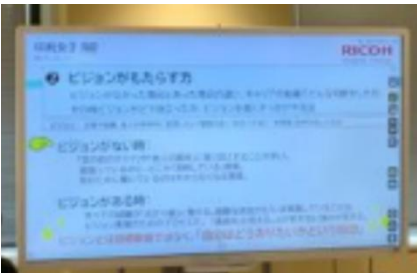
マイビジョン・シートの作成ワークショップに先立ち行われたのが、印刷業界で活躍する2名の女性によるインスピレーショントークでした。登壇したのは、セントラル印刷株式会社 代表取締役の関野里美氏と、リコージャパン株式会社 デジタルサービス企画本部 PP ビジネスサポート部 部長の青木玲子氏です。このセッションは、印刷業界でキャリアを重ねてきた先輩たちの経験や考え方に触れながら、参加者それぞれが自分自身の「軸」を考えるための、20分間の導入として設けられました。

インスピレーショントークとは、聞く人の心を動かし、「やってみたい」「変わりたい」と思わせる、勇気や希望を与える話のことです。



最初のテーマは、「働く上で大切にしていること」。関野氏が挙げたのは、「時間」という非常にシンプルな価値観でした。旅行会社での勤務経験を通じて、仕事は時間を守ることがすべての基本だと実感してきたといいます。自分が少し早めに動くことで余裕が生まれ、信頼関係が築かれる。その積み重ねが、経営者としての判断基準にもなっているという話でした。

一方、青木氏が語ったのは「誠実な循環を生むこと」です。40代までは成果を出すことを最優先に働いてきましたが、あるプロジェクトをきっかけに、人に任せることの大切さに気づいたといいます。後輩から「頼ってください」と声をかけられた経験を通じて、組織で力を発揮することの意味を実感し、今は知識や経験を次の世代につなぐことを意識していると語られました。



続くテーマは、「ビジョンがもたらす力」です。青木氏は、ビジョンがない状態では目の前の仕事に追われ、忙しさだけが残ってしまうと話します。一方で、ビジョンがあれば「この先につながっているから今やっている」と意味づけができ、踏ん張れる。自身のキャリアの転機では、ビジョンを「一人で成果を出す」から「組織で力を発揮する」へと切り替えたことで、視野が広がったと振り返りました。

関野氏は、「好きなことを仕事にすること」と「仕事はお金を稼ぐもの」という二つの軸を挙げました。利益が出なければ仕事は続かない。しかし、好きではないことを続けるのも苦しい。だからこそ、自分の「好き」を印刷の仕事に重ね、領域を少しずつ広げてきたと語ります。好きなことに向き合っていると、自然と次のビジョンが見えてくるという実感が共有されました。

キャリアも立場も異なる2人の話は、答えを示すものではありませんでした。ただ、「自分は何を大切にしてきたのか」「これから何を軸に選んでいくのか」を考えるための、具体的な材料を参加者に手渡していたように思います。このインスピレーショントークを受けて、午後のワークショップでは、参加者が自分の言葉で考え、書き、対話する時間へと進んでいきました。

④ マイビジョンシート作成 & グループでの対話

——「考える時間」を、仕事の中に取り戻す



マイビジョンシートは、①仕事/会社関係、②個人の成長、③家族/家庭、④その他に関して、1年後・5年後・10年後の自分の姿を描くワークショップです。個人で作成したのちに、各グループで共有しました。多くの参加者が口をそろえていたのは、「久しぶりに、自分のことをちゃんと考えた」という実感です。

アンケートには、こんな声が並びました。

「ビジョンがないと、忙しいだけで疲れてしまう、という言葉にハッとしました」「未来のことを、意外と何も考えていなかった自分に気づきました」日々の仕事に追われていると、“今を回すこと”で精一杯になりがちです。でもこのワークショップでは、一度立ち止まり、自分はこの業界で、どうありたいのかを言葉にする時間が用意されていたようです。

マイビジョンシート

氏名 _____
作成日 ____年 ____月 ____日

あなたの夢を書き出してみよう！
遠慮なく何でも構いません。その夢の達成に何を始めるかも考えてみてください。
すべてを埋める必要はありません。提出も不要です。

エリア	1年後 (年齢 歳)		5年後 (年齢 歳)		10年後 (年齢 歳)	
	ありたい自分の姿	そのために何をやる?	ありたい自分の姿	そのために何をやる?	ありたい自分の姿	そのために何をやる?
仕事・会社関係						
個人の成長						
家庭・家庭						
その他						

※シートを印刷する場合はA4用紙を推奨します

印刷女子 girls who PRINT
刷って、語って、つながって。

女性同士だから出てきた「現実的な本音」

印象的だったのは、女性だけの場だったからこそ、役職や立場に関係なく、本音が交わされていたことです。「中間管理職の女性同士で“あるある”を共有できたのが、とても救いになりました」「会社では言いづらい悩みも、率直に話せました」

ここで語られていたのは、理想論ではなく、**今まさに直面している仕事の現実**。だからこそ、共感で終わらず、「じゃあ次にどうするか」を考える視点が自然と生まれていたように思います。



世代を超えた対話が、視野を広げる

グループディスカッションでは、若手からベテランまで、世代の異なる参加者が同じテーブルにつきました。「若い世代が、しっかり未来を考えている姿に刺激を受けました」「年上の方の悩みやビジョンを聞き、自分の将来像が具体的になりました」

印刷女子の場では、「どの世代が正しい」という話にはなりません。それぞれの立場や経験が、そのまま学びになる。この横並びの関係性こそが、午後のワークショップの価値だと感じました。



書くことで、自分の「軸」が見えてくる

マイビジョンシートの記入では、1年後、5年後、10年後を見据えて、仕事・個人・家庭という軸で自分の未来を書き出しました。「書いてみて初めて、頭の中が整理されました」「“好き”や“軸”という言葉が、強く印象に残りました」
話すだけでは曖昧だった考えが、書くことで輪郭を持つ。このプロセスそのものが、ビジネスの場としてのワークショップだったと思います。



印刷女子は「考え続ける人」のための場

アンケートの中で、特に多かったのはこんな声でした。
「同じ業界で、こんなに前向きに働いている女性がいると知れたことが一番の収穫でした」「一人じゃないと感じられたことで、仕事への向き合い方が少し変わりました」



印刷女子は、誰かに背中を押してもらおう場所ではありません。
でも、一人で考え続けなくていい場所です。現場を見て、自分を振り返り、次にどう動くかを考える。
午後のワークショップは、そんな「思考の循環」をつくる時間でした。もし、これから参加を迷っている方がいたら。完璧なビジョンがなくても大丈夫。考え途中のまま、この場に来てみてください。



参加者リスト (敬称略) (あいうえお順)

皆さま、ご参加ありがとうございました！

	お名前	会社名	参加回数
	秋庭 理恵子	キヤノン株式会社	初
メ	安藤 光信	印刷タイムス株式会社	初
	石原 智子	日本プリンティングアカデミー	2
	糸魚川 有紀	ブラザー販売株式会社	初
	岩間 奏子	北星印刷株式会社	初
メ	上杉 幸生	株式会社総合報道	初
	岡山 彩花	トーヨーカラー株式会社	初
	岡本 さや	株式会社オピカ	2
	檜井 佑里花	日本女子大学	初
	加藤 三紀子	日本印刷産業連合会	3+
	河合 萌々	日本プリンティングアカデミー	初
メ	小島 春香	株式会社総合報道	初
	駒田 好美	キヤノンマーケティングジャパン株式会社	3+
	坂本 明佳	株式会社オピカ	初
	櫻田 真奈美	錦明印刷株式会社	初
	柴田 享子	リコージャパン株式会社	初
	内藤 広菜	富士フィルムビジネスイノベーション株式会社	初
メ	中村 幹	株式会社印刷学会出版部	3+
メ	中村 真己	プリント&プロモーション	初
	成田 彩夏	ブラザー販売株式会社	初
	成澤恵美	セントラル印刷株式会社	3+
メ	西山 奈美	印刷タイムス株式会社	2
メ	根崎 朋美	ニュープリンティング株式会社	2
	野谷 涼花	リコージャパン株式会社	初
	林 杏佳	株式会社メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン	2
	林 詩織	キヤノンマーケティングジャパン株式会社	初
	物江 瑞季	情報経営イノベーション専門職大学	初
	三浦 千波	佐川印刷株式会社	初
	矢崎 智子	株式会社 SCREEN GP ジャパン	2
	吉崎 夕貴	ブラザー販売株式会社	初
○	小林 可奈	株式会社リコー	3+
○	青木 理恵	株式会社 SCREEN グラフィックソリューションズ	3+
○	関野 里美	セントラル印刷株式会社	3+
○	永嶋 ゆり	株式会社日本 HP	3+
○	清水 祐介	キーポイントインテリジェンス (株)	3+

○ = 事務局/運営スタッフ メ = 業界メディア

参加者の声（午前：富沢印刷様へのご訪問/見学）

現場を「一連の流れ」で見られた価値



「印刷から製本、出荷までを一気通貫で見学でき、普段は断片的にしか知らなかった工程が、一本の流れとして理解できました」
「機械単体ではなく、工程全体としてどう品質をつくっているのかがよく分かりました」

“人の判断”が品質を支えているという実感



「測色や調整など、最終的にはオペレーターの経験と判断が品質を左右していることを改めて感じました」
「デジタル化が進んでいても、人の目と感覚が欠かせない現場だと実感しました」

コンパクトだからこそ見える工夫



「限られたスペースの中で、導線や配置がよく考えられていて、とても効率的だと感じました」
「整理整頓が徹底されており、働く環境そのものが品質につながっていると感じました」

印刷会社の“粋”を超えた挑戦への驚き



「印刷だけでなく、映像や地域イベントなど、新しい取り組みに積極的に挑戦されている姿が印象的でした」
「老舗でありながら、常に新しい価値を生み出そうとしている姿勢に刺激を受けました」

“現場を見せる”こと自体の価値



「普段なかなか立ち入ることのできない印刷現場を実際に見ることができ、とても貴重な経験でした」
「説明が丁寧で、質問にも率直に答えていただけたことで、理解が一層深まりました」



他社を知ることで、自社を見直すきっかけに

「自社と共通する設備や違いを比較しながら見学でき、とても学びが多かったです」
「他社の現場を見ることで、自分の仕事や会社のあり方を振り返る良い機会になりました」

参加者の声（午後：勉強会&交流会 in リコージャパン様）

女性同士だから話せた「本音」



「女性だけの場だったからこそ、会社では言いづらいことも率直に話せました」
「中間管理職の女性同士で“あるある”を共有できたのが、とても救いになりました」

世代を超えた視点が刺激に



「若い世代がしっかり未来を考えている姿に、ハッとさせられました」
「年上の方のビジョンや悩みを聞き、自分もこうなりたいと思える姿が見えました」

「好き」「軸」という言葉が残った



「好きを仕事にする、印刷の中で自分の好きなことを見つける、という話が印象的でした」
「自分はどうかありたいのかを、久しぶりに真剣に考えました」

ビジョンがある・ないの違いに気づく



「ビジョンがないと、忙しいだけで疲れてしまうという言葉にハッとしました」
「未来のことを、意外と何も考えていなかった自分に気づきました」

書くことで、考えが見えてくる



「思いは書いて残すことが大切だと実感しました」
「マイビジョンシートを書くことで、頭の中が整理されました」

他社・他職種との対話が視野を広げる



「同じ業界でも、立場や役割が違っていると見えている景色がこんなに違うんだと感じました」
「自社の外に出ることで、自分の仕事を客観的に見られました」

「一人じゃない」と感じられる場



「同じ業界で頑張っている女性に会えるだけで、仕事へのモチベーションが上がります」
「この業界で、こんなに前向きな人たちがいると知れたことが一番の収穫でした」

次回イベントのご紹介

印刷女子 交流ツアー in page 2026 2026. 2/19 (木) 14:30 – 16:00



page 2026 で集まりませんか？

2/19 (木) 14:30 「Screen GP ジャパン」の展示ブースに集合

- ・印刷女子/GWPj 事務局 2 名によるトークセッション(15min)の後、交流ツアーを開始。
- ・各社の展示ブースを訪問して、印刷女子メンバーと交流します (約 1 時間)
- ・希望者は、17:00 以降の交流会 (場所 池袋で調整中) にもご参加ください。

- ・ちょうど page に行くから、参加できるよ！
- ・自社の展示ブースにいるから、気軽に立ち寄ってくださいね！



など、以下の登録フォーム (→の QR からでも) におねがいます！

Meetup in page2026
詳細&登録はこちら

<http://印刷女子.style/page2026meetup/>

日本事務局メンバーのご紹介



小林 可奈
(株)リコー



永嶋 ゆり
(株)日本HP



寺木 理恵
株)SCREEN
グラフィック
ソリューションズ



関野 里美
セントラル印刷(株)



加藤 三紀子
一般社団法人
日本印刷産業連合会

<http://印刷女子.style/>

印刷女子通信 (メルマガ) へのご登録はこちら

→ Google で検索「印刷女子.style」 or 右の QR コードから

[詳細はこちら](#)



お問い合わせ : yusuke.shimizu@keypointintelligence.com 080-4799-2960 (Keypoint / 清水祐介)